

第十一回 福原徹演奏会

徹の笛

2020.

11/30 (月) 午後7時開演 銀座 王子ホール

主催=「徹の笛」実行委員会

後援=  公益財団法人日本伝統文化振興財団 / (有)邦楽ジャーナル

邦楽の友社 / 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

助成= 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京



本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。

この春から大変な状況が続いております。

各地で災害も起きております。

ご自身はもちろんのこと、皆様のお身内、お近くの方など、苦しい思いをされている方がおられませんでしょうか。心よりお見舞い申し上げます。

また、医療関係の皆様をはじめ、困難に立ち向かってくださっている方々に、敬意と感謝を申し上げたいと思います。

2001年にスタートしたこの「徹の笛」と題したリサイタルも、11回目を迎えました。

今回の曲目5曲のうち、桜を題材にしたものが3曲ありますが、全て昨年の企画段階で決めてあったものです。今年は春が失われたような年になってしまいましたが、いろいろ考えさせられる思いがいたします。

これまでも全てが「試行錯誤」の連続でしたが、今回も共演者、スタッフの皆さんに、いろいろ無理をお願いしました。

また、ご助成賜りましたアーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、ならびに、ご後援いただきました各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりましたが、落ち着かない状況のなか、ご来場いただきました皆様方に、あらためて厚く御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

福原 徹

<p>●</p> PROGRAM	
<p>六世福原百之助 (四世寶山左衛門) 作曲</p>	
<p>山桜の歌</p>	
<p>笛 福原 徹</p>	
<p>山田 検校 作曲</p>	
<p>熊野</p>	
<p>唄・箏 山登松和 笛 福原 徹</p>	
<p>————— 休憩 —————</p>	

<p>シェイクスピア作 坪内逍遙訳「リチャード三世」より</p>	
<p>福原徹 作曲 中川俊郎 ピアノパート作曲補佐</p>	
<p>リチャード三世の独白〈初演〉</p>	
<p>笛 福原 徹 唄・三絃 山登松和 ピアノ 中川俊郎</p>	

<p>レイナルド・アーン 作曲</p>	
<p>クローリスへ</p>	
<p>笛 福原 徹 ピアノ 中川俊郎</p>	

<p>福原徹 作曲 中川俊郎 ピアノパート作曲補佐</p>	
<p>千年の桜〈2020年版初演〉</p>	
<p>I</p>	
<p>II</p>	

<p>笛 福原 徹 ピアノ 中川俊郎</p>	
----------------------------	--

<p>「作品ノート」</p>	
<p>福原 徹</p>	
<p>●山桜の歌</p>	
<p>六世福原百之助 (四世寶山左衛門、1922-2010) 作曲。</p> <p>師匠は笛の名曲をいくつも作曲されたが、初心者にも愛されるような小品もたくさん作られていて、メロディー・メーカーとしても優れていたと思う。この曲は篠笛の二重奏で吹くことが多いが、今回はソロで吹く。</p> <p>師匠が旅立たれ、この夏で10年になった。</p>	
<p>「うらうらと照れる光にけぶりあひて咲きしづもれる山ざくら花」 (若山牧水)</p>	

<p>ゆ や</p>	
<p>●熊野</p>	
<p>山田検校斗養一 (1757-1817) 作曲。詞章には、平家物語巻十「海道下」を脚色した能「熊野」のクセ以降の部分が用いられている。平宗盛の寵愛を受けている熊野は東国に住む老母の病を案じながらも、宗盛に清水寺の花見に連れて行かれてしまう。花見の宴で熊野が舞うと、村雨が降り、花を散らす。母を思って古歌を歌い、和歌をしたための熊野。感じ入った宗盛は帰郷を許し、熊野は東国を目指して旅立つ。</p>	

師匠から譜をお借りしてこの曲を初めて吹いたのはまだ芸大生だった時で、友人の御実家の会で諸先生方に囲まれながら吹いたのだが、この時が初めて箏曲に触れた時だったと思う。山田検校のことは名前くらいしか知らず、この曲が「^{おくよつもの}奥四曲」の一つとしてとても大切に扱われているということを知ったのはずっと後のことだった。今振り返ると、ただただ恐ろしい。

本来は二面一挺で演奏され、役ごとに歌い分けされるが、今回は箏と笛の一对一。

<p>モノローグ</p>	
<p>●リチャード三世の独白</p>	

2009年、坪内逍遙生誕150年記念逍遙祭で、逍遙訳「ハムレット」の詞章を用いた作品を発表した。その際いろいろご教示いただいた (財) 逍遙協会元理事長の故・菊池明氏が「リチャード三世っていう作品がね…」と熱く語っておられたのが、ずっと気になっている。

王になることで人々を嘲笑しかえそうと野心を抱き、敵ばかりか身内にも暴虐の限りをつくし王座に就いたりチャード。しかし最後の決戦前夜、彼が殺めた者たちの亡霊が次々と夢に現れ、「絶望して死んでしまへ!」と彼を呪う。その夢から覚めたリチャードの長い独白のごく一部を、今宵取り上げる。

「ハムレット」「マクベス」などに続き今回も逍遙訳テキストのことなどで、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館招聘研究員の濱口久仁子氏に大変お世話になった。

<p>●クローリスへ</p>	
<p>レイナルド・アーン (1875-1947) 作曲。アーンはベネズエラ生まれのフランスの作曲家。少年時代から美声に恵まれ、マスネに師事。指揮者としても成功をおさめ、晩年はパリ・オペラ座監督に就任。プルーストとも親しかった。</p> <p>一見、バッハを彷彿とさせるようなピアノ前奏で始まる美しい歌曲。その歌を篠笛で吹く。</p>	

<p>A CHLORIS クローリスへ (詩:テオフィル・ド・ヴィオー／訳:金子泰)</p>	
<p>クローリス しんじつ君が僕を愛しているのなら わかっているが言わせておくれ 本当に深く愛しているならば どんな王でも 僕の幸せには及ぶまい</p>	
<p>死とはなんと迷惑なやつ 僕のこの幸運を 天上の祝福と取り替えに来るなんて!</p>	
<p>かのアンブロシアのことでさえ 君の美しい瞳の代わりに 僕の夢想に触れることはできない</p>	

テオフィル・ド・ヴィオー (1590-1626) は17世紀初頭のフランスの詩人。リベルタン (自由思想家) として知られ、自在な靈感・夢想のままに詩作した。アンブロシア・・・ギリシャ神話の神々の食べ物。美味であり不老不死をもたらすという。

<p>●千年の桜</p>	
<p>2004年の第二回「徹の笛」で、謡曲の桜の場面や西行の和歌を用いた「千年の桜」と題した作品 (笛・謡・太棹三味線・ピアノ) を発表した。</p> <p>その中に、福島県三春の「滝桜」をイメージした器楽部分があり、新たにそれを取り出して膨らませた「壁」 (笛・太棹・ピアノ) を作り、さらに手を加え再演を経て2006年第三回「徹の笛」で「三重奏曲」という名前に変えて発表した。</p>	

その後、2011年の震災直後に中川さんからお声を掛けていただいたユー・ストリームライブで、笛とピアノだけでその「滝桜」の部分を抜粋して演奏したのを機に、改変を重ね、時に編成を変えながらたびたび演奏するようになり、昨年春の第十回「徹の笛」では笛・尺八・太棹・ピアノによる2019年版を発表した。

ライフワークのようになりつつある作品であり、かれこれ16年に渡り作品自体が「いきもの」のように変化し続けている作品でもある。

今回は、笛とピアノだけによる、2020年版。



写真：大窪道治

福原 徹 [ふくはら・とおる／邦楽囃子笛方]

1961年東京生まれ。六世福原百之助(四世寶山左衛門・人間国宝)に入門、福原徹の名を許される。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。邦楽囃子笛方として、長唄・箏曲などの演奏会、日本舞踊・歌舞伎の舞台、放送、海外公演等で、篠笛・能管の古典演奏活動を続けると共に、笛を中心とした作曲に取り組む。

2001年第1回演奏会「徹の笛」(津田ホール)を開催、平成13年度文化庁芸術祭大賞(音楽部門)を受賞。2002年～2003年、新作連続演奏会「徹の笛 in MUSICASA」を隔月で連続6回開催。以後、第2回～第9回「徹の笛」を紀尾井ホール、王子ホール、紀尾井小ホール、東京文化会館小ホールにて開催。2019年第10回「徹の笛」(紀尾井ホール)開催。

東京藝術大学、洗足学園音楽大学、清泉女子大学、立命館大学等の非常勤講師を歴任。NHK文化センター(青山、浜松、名古屋、柏、岐阜)講師。また、東京、浜松、彦根などで指導にあたり「百笛会」を主宰。一般社団法人長唄協会会員。創邦21同人。大田まちづくり芸術支援協会アドバイザー。

文部科学省検定 中学校音楽教科書「中学器楽 音楽のおくりもの」(教育出版発行)著者。

月刊誌「邦楽ジャーナル」に「篠笛超入門」連載中。

CD:「徹」「徹の笛」「lift off」ほか。



山登松和 [やまと しょうわ／箏曲演奏家]

山田流箏曲山登派七代家元。4歳より五代家元山登愛子(祖母)に箏の手ほどきを受ける。以後、中能島欣一師に箏、鳥居名美野師に箏・三絃を師事する。

東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業、同大学院修士課程修了。在学中、増淵任一郎師、木原司都子(六代山勢松韻)師に師事。安宅賞受賞。赤坂御所にて御前演奏。

東京藝術大学非常勤助手・講師を務める。

国際交流基金派遣専門家としてアフリカ公演(タンザニア・ガーナ・南アフリカ・スーダン)に参加。リサイタル「山登松和の会」を開催、現在までに6回を数える。アラブ首長国連邦アブダビにて演奏会開催。

ビクター財団賞「奨励賞」、文化庁芸術祭優秀賞、松尾芸能賞新人賞を受賞。

現在、山登会主宰、公益社団法人日本三曲協会常任理事、山田流箏曲協会理事、跡見学園中学校高等学校課外箏曲講師。



中川俊郎 [なかがわ としお／作曲家・ピアニスト]

1958年東京生まれ。桐朋学園大学作曲科卒業。作曲を三善晃、ピアノを末光勝世、森安耀子各氏に師事。武満徹主宰(Music Today '82)国際作曲コンクール第1位。1988年村松賞、2009年、サントリー芸術財団主催で「作曲家の個展2009、中川俊郎」が開催され、その成果に対して、第28回中島健蔵音楽賞受賞。他にCM音楽界において「ACC賞」等多数受賞。

東芝EMIから、自作のサントリー「烏龍茶CM曲シリーズ」を収録したCD「chai」、「cocoloni utao」などを、またフォンテックからCD管弦楽作品選集「沈黙の起源」(2017年3月)、299MUSICからピアノ作品集「メッセージ/佐藤祐介×中川俊郎」(2018年10月)をリリース。

現在、日本現代音楽協会理事、日本作曲家協議会常務理事、深新會副代表、お茶の水女子大学非常勤講師。

●主催:「徹の笛」実行委員会

●制作:日本伝統音楽振興会 黒河内 茂 ●舞台監督:清野正嗣 ●協力:加藤繁治 ●デザイン:長田 彰

<https://torunofue.wixsite.com/website-1>

